

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 10月 31日

事業所名 てらびあぼけつと大倉山教室

保護者等数(児童数)28(29) 回収数26 割合 93 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	25	0	0	1		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	26	0	0	0		
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	25	0	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	26	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	25	0	0	1		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	25	0	0	1	ガイドラインについて詳しくわからないので評価しにくい	児童発達支援ガイドラインは、厚生労働省の公式サイトにてダウンロードしていただくことが可能です。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	26	0	0	0		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	22	1	0	3	まだ入所利用をはじめて間もないため	都度プログラムが固定化しないよう課題設定を行っております。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8	5	3	10	まだ入所利用をはじめて間もないため	現在実施実績はありません。必要に応じて設定させていただきます。
保護者 への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	26	0	0	0		
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	25	0	0	1	説明いただいたかもしれませんがわかりませんでした	児童発達支援計画(個別支援計画)をより丁寧に説明できるよう努めてまいります。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	10	6	3	7	・家族支援プログラムが何かわかりませんでした ・まだ入所利用をはじめて間もないため	現在実施実績はありません。フィードバックの際、ご家庭で取り組みそうなことはご提案させていただいております。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	26	0	0	0		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20	2	2	2	・面談という形ではない。家庭でできるアドバイスがあればほしい。又、幼稚園遊びに対してご意見あれば好きたい。 ・まだ入所利用をはじめて間もないため	支援計画書の見直しのタイミングで面談をさせていただいております。その他必要があれば、お伝えいただければ面談の時間を設けてさせていただきます。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	7	9	8	まだ入所利用をはじめて間もないため	現在実施実績はありません。必要に応じて設定させていただきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	24	1	0	1		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	24	2	0	0		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	12	5	0	9	・ホームページを拝見したことがありませんでした ・すみませんみてません	
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	25	0	0	1			

非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	16	2	0	8	訓練を実施しているかを見ておらずわかりませんでした	各マニュアルは入口右手に掲載しております。必要に応じて、訓練も取り組んで御有ります。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16	1	0	9	訓練を実施しているかを見ておらずわかりませんでした	年2回を目途に避難訓練を実施しております。(2023年は10月上旬, 3月下旬予定)
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	20	4	0	2	・2人とも嫌がらず楽しくやっております ・当初は嫌だったが、職員の皆さまのおかげで通所が楽しみになっています ・まだ離れることに対して不安で毎回泣いてしまう	子どもたちが楽しく通えるよう職員一同寄り添いつつ、丁寧な療育を努めてまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	26	0	0	0		

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 10月 31日

事業所名 てらびあぼけつと大倉山教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0		集団活動、個別活動の部屋をそれぞれ設けています。
	2 職員の配置数は適切であるか	6	1		児童10人対し指導員2人という人員配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置を行っています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2		バリアフリー基準を満たした設備になっており、集団活動部屋、個別活動部屋と構造化した環境となっております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0		毎日、清掃、消毒を行い清潔な環境に気を付けています。常時空気清浄機をつけ、冬場は加湿器を設置しています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0		PDCAサイクルを心掛け、朝礼、終礼を行っています。また、職員ミーティングも適宜実施しております。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		開所半年で事業所評価アンケート調査を行い、結果を公表するとともに、職員間でも結果を共有し、業務改善につなげております。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1	※無回答2名	てらびあぼけつとのホームページ上に結果を公表しております。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		現在は保護者の方の評価と事業所内評価のみですが、今後必要に応じて外部評価の実施を検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0		外部研修の参加や、内部研修により支援の質を高められるよう努めています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0		利用に際しての見学・体験時に保護者面談を行いニーズを把握したり、行動観察を記録し、個別支援計画を作成しています。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	言語聴覚士による構音検査の実施	外部でとった発達検査の結果等でも発達状況を把握し、支援計画に活かしています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0		ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に即した支援内容を個別支援計画に設定しています。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		児童発達支援計画(個別支援計画)に沿った支援を行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		日々のミーティングで話し合い、共通の目標をもって取り組むことを目指しています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0		プログラムの立案についても、複数の視点から検討しています。一人一人の発達や状況に応じた課題設定となるよう、日々職員間で確認しながら行っています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0		一人一人の発達に応じ、集団適応・社会性の視点を持ちながら児童発達支援計画(個別支援計画)の作成にあたっています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	朝礼の実施	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	終礼の実施	朝礼では、プログラムの流れや役割分担、支援方法、配慮点を確認しています。終礼では、子どもの様子や支援の振り返りを行い記録をとっています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0		6ヶ月に1度、見直しを行っています。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最も心ざわしい者が参画している	5	1	実施なし ※無回答1名	開催される場合、児童発達支援管理責任者や管理者など適任者を選んで出席します。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	3	※無回答1名	必要に応じて幼稚園、保育園との連携を図れる体制を整えています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	3	医療的ケア児利用なし ※無回答4名	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	3	医療的ケア児利用なし ※無回答4名	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	5	現在、該当児なし ※無回答1名	移行先や保護者の要望に応じて情報提供を行っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	4	現在、該当児なし ※無回答2名	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	※無回答1名	必要に応じて適宜行っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	4	※無回答1名	事業所として交流活動等の実績はありませんが、保護者のご希望があれば通園先との連携などを行っています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	6	※無回答1名	要請があれば参加する体制はあります。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	フィードバック時に共有	日々のフィードバックの際、子どもの状況や課題について日無をする機会を設けたり、必要に応じて個別に相談の時間も設けています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3	※無回答1名	現在ペアレント・トレーニングの実施実績はありません。今後実施に向けて検討しています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		契約時に説明をさせていただいております。また不明な点は随時職員が説明をさせていただいております。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		面談時に支援計画について丁寧な説明を心掛け、保護者に理解していただいたうえで同意を得ています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0		希望に応じて相談を受け付けております。また定期的なモニタリング時に相談の時間も設けています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7	実施なし	現在保護者会の実施実績はありません。今後実施に向けて検討しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		相談の申し入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ適切に対応するよう努めています。苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し、契約時に説明しています。
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	ブログ配信・Instagramの運用	リタリコブログやInstagramで活動の様子など配信しております。	
38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		個人情報に記載された書類は鍵付きのキャビネットに保管しています。	
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		その日に取り組む課題が視覚的に分かりやすくするよう配置したり、ボードに貼り出すなど、伝える方法をお子さんや保護者に合わせるようにしています。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	ことばの教室の実施	2023年7月に《ことばの教室》を2回開催いたしました。地域の方々が多数参加されました。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0		マニュアルについて職員間で共有を行い、訓練の実施も行ってあります。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	避難訓練の実施	活動時間中に避難訓練の実施を行いました。今後も定期的な訓練を継続します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0		保護者記入欄の健康状態項目により把握しています。また、必要に応じて聞き取りを行っています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	該当児なし ※無回答3名	食事提供はありませんが、アレルギーがあれば活動に取り入れられないようにしています(小麦粘土など)。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0		危険な事例があった場合、特定の報告書に記載しミーティングを通して職員で共有しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		外部研修に参加の上、事業所内でも研修を行っています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0		身体拘束に関しては、利用者本人の生命や身体を保護する緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性があることを条件に行うことを職員間で共通認識とし、行った場合は記録に残すこととしています。

職員による自己評価

A環境面

大部屋と個室があり、十分なスペースを確保している。
交代で公休を取ることで、人員配を厳守できている。

B児童への支援内容

定期的に全職員が研修を受けている。また教材に変化を加えてマンネリ化しないようにしている。

C関係機関との連携

子ども部会の参加や、幼稚園・保育園訪問で連携を図っている。

D保護者への説明責任・信頼関係

事業所内にて相談を行い、寄り添う姿勢を大切に取り組んでいる。

E非常対応

避難訓練の実施している。回を重ねるごとにスムーズに行動できるようになっている。虐待防止研修の実施。

保護者による評価

A環境面

きれいに整理されている。先生の数も多く、専門性がある。

B児童への支援内容

子どもの課題を親身に聞いてくれる。必要なスキルを身につけさせてもらっている。

C事業所からの情報発信

セラピーノートのほか日々のフィードバックで詳しく伝えてもらっている。

D非常対応

保育園（幼稚園）での避難訓練もスムーズに参加できるようになった。

事業所内での分析

【共通点】

広いスペースを使って、身体を動かすこともでき、楽しく過ごせている。
要望に応じた療育を工夫して行っている。
一人一人に寄り添う、あたたかな支援をしている。

【相違点】

専門職員が行う療育を増やしてほしい。
→共同担当制によるローテーションで組んでいるため、指名は対応していない旨をご理解いただく。
また、専門職員から全職員へアプローチ方法、評価の基準等研修や情報共有の場を設ける。

分析・検討してみて…

事業所の強み

大部屋と個室があり、活動に応じて広いスペースを有効活用している。
言語聴覚士や作業療法士等、専門職員が常勤で配置することが出来ている。
保護者様に寄り添うことを心掛け、相談支援に力を注いでいる。
個別療育を実施しており、個に応じた支援の提供ができています。
内部研修のみならず、外部の研修も受け、支援のスキルアップが図れている。

事業所の改善点

保護者の方へ ABA の理解を促す。
専門職員から全職員へ知識、技術の共有を行う。
園での困りごとにも対応できるよう希望があれば園訪問など定期的実施する。

事業所の改善への取り組み

これからもセラピーの質の向上を目指す。
子どもの接し方や保護者様対応について社内研修を行う。
ご要望がたくさんあるので、事業所内相談と関係機関連携の実施を続けていく。
こども部会の参加などで、他事業所との関わりも持てるようにしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

日々のお悩みや心配事を聞く機会を設けることで、保護者様の安心感に繋がっていると感じた。
これからも寄り添う姿勢を大切にして支援を続けていきたい。
スタッフ間のチームワークの良さも強みになっていると感じるので、
相談しやすく働きやすい環境を整えていきたい。

事業所名 てらびあぼけっと大倉山教室

担当者 管理者 木内 沙紀